

術後腭液瘻にIVRが 奏功した一例

栃木県立がんセンター 画像診断部
山本孝信

症例

- 80歳代女性
- 肝外胆管癌に対し、肝外胆管切除、胆管十二指腸吻合施行。
- 術後の経過は良好であったが、ウインスロー孔ドレーン抜去数日後から、発熱およびドレーン抜去部からの膿性浸出を認めるようになる。



ドレーン再挿入時

経過

- ERCPで膵管ドレナージを試みるが、乳頭・副乳頭共に膵管は造影されず。
- 高齢であることから膵頭十二指腸切除を回避しており、再手術は出来る限り回避したいとの希望で、IVR治療についてコンサルトされる。

治療戦略

1. ドレーンの瘻孔から乳頭部を検索し、乳頭拡張術を行う。
2. 経皮経胃膵管瘻を新たに作成し、このルートから乳頭部を検索し、乳頭拡張術を行う。
3. 胃膵管瘻にtube stentを留置する。

治療戦略

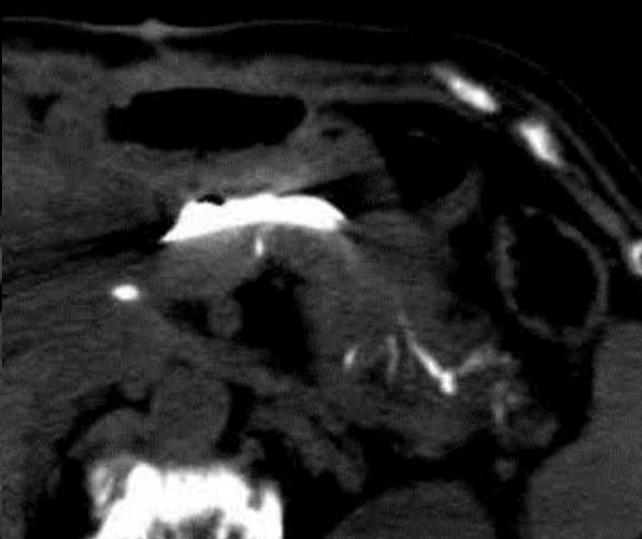
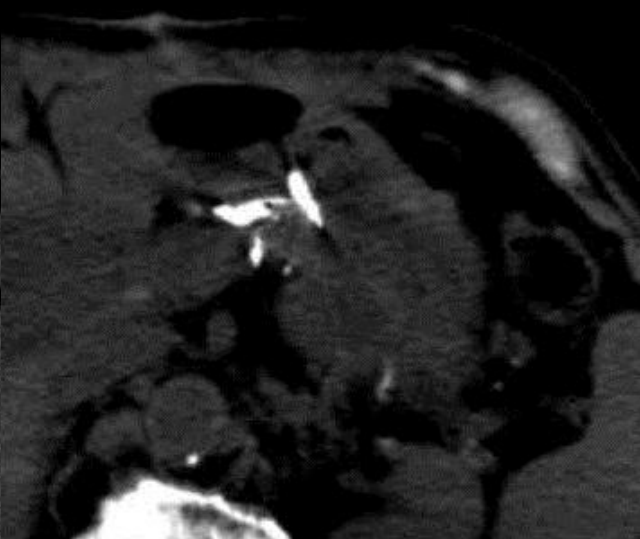
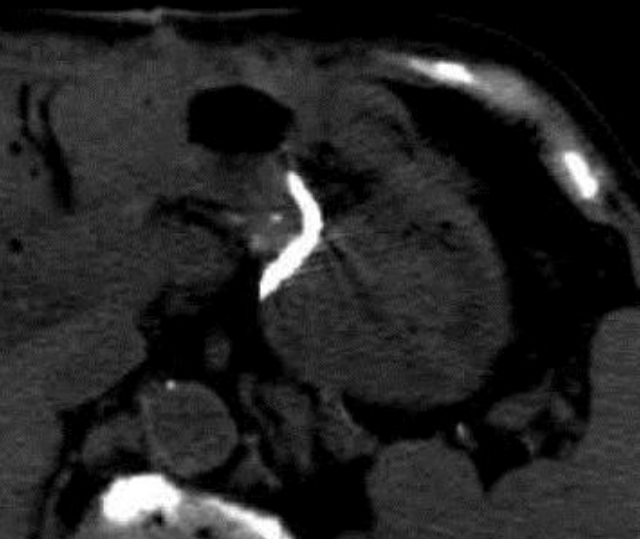
1. ドレーンの瘻孔から乳頭部を検索し、乳頭拡張術を行う。
2. 経皮経胃腸管瘻を新たに作成し、このルートから乳頭部を検索し、乳頭拡張術を行う。
3. 胃腸管瘻にtube stentを留置する。



乳頭部を突破できず



經皮
膽管瘻



治療戦略

1. ドレーンの瘻孔から乳頭部を検索し、乳頭拡張術を行う。
2. 経皮経胃膵管瘻を新たに作成し、このルートから乳頭部を検索し、乳頭拡張術を行う。
3. 胃膵管瘻にtube stentを留置する。



設造瘻管脾胃經皮經



乳頭部を突破できず



經皮經臍管胃瘻

治療戦略

1. ドレーンの瘻孔から乳頭部を検索し、乳頭拡張術を行う。
2. 経皮経胃腸管瘻を新たに作成し、このルートから乳頭部を検索し、乳頭拡張術を行う。
3. 胃腸管瘻にtube stentを留置する。



tube stent留置

結語

- 術後腭液瘻に対して、IVRが奏功した一例を経験した。
- 腭液瘻は難治性であることが多く、特に本症例においては、再手術は避けられない状態と考えられるが、再手術を回避しIVRで治療し得たことに大きな意義がある。